

氏 名	菅波 由有
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6109 号
学位授与の日付	令和 2 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Correlations between Depressive Condition and Gastroesophageal Reflux Symptoms in Patients Visiting a Department of General Medicine (総合内科外来患者における抑うつ状態と胃食道逆流症状の相関関係 について)
論文審査委員	教授 山田了士 教授 岡田裕之 准教授 白川靖博

学位論文内容の要旨

総合内科外来患者における自己評価式抑うつ尺度(SDS)と F スケール質問票(FSSG)の臨床的な関連性を明らかにするため、岡山市立市民病院総合内科外来を受診した 447 名の患者を後ろ向きに解析した。全患者で 553 の症状があり、6 つに分類して解析した(呼吸器系(31%)、循環器系(3%)、胃腸系(26%)、神経系(8%)、整形外科・皮膚系(10%)、全身系(22%))。抑うつの割合は 4.4-7.4%で、GERD の割合は 42.2-62.2%であった。SDS スコアは女性と若年者で、FSSG スコアは性差なく若年者で、高い傾向であった。主訴の種類にかかわらず FSSG スコアは SDS スコアと相関関係を認めた($R=0.417$, $p<0.01$)。診察前に抑うつ症状と GERD 症状の双方もしくは一方を初期評価することは、潜在的病態のスクリーニングに役立つことが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、総合内科外来を受診する患者にスクリーニングを行い、主訴別の潜在的病態を探ることを目的として後方視的検討を行ったものである。対象は岡山市立市民病院総合内科を受診した患者 447 名で、自己評価式うつ尺度 (SDS) と逆流性食道炎 (GERD) の F スケール質問票 (FSSG) の 2 つの質問紙を用い、患者の主訴との関連を含めて検討した。その結果、SDS は 4.4-7.4%、FSSG が 42.2-62.2%の患者でカットオフを上回り、主訴による差はみられなかった。両スコアとも若年者に高い傾向が見られた。また両スコアは主訴の如何に関わらず相関関係を認めた。総合診療における抑うつや GERD の潜在性を示唆する有用な知見といえる。

以上本研究は、総合診療での初期診療における消化器症状と精神症状の関連について重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。